

【別紙①】「VR自転車交通安全教室」の特長、コンテンツ内容

■特長・イメージ

- 特に事故が起こりやすい状況を3DCGで表現することにより、体験者は臨場感ある交通事故の疑似体験が可能となります。
- 事故の発生状況を「自転車視点」、「自動車視点」、「全体俯瞰視点」の3つの視点で確認することにより、客観的な事故要因の理解につなげることができます。
- 3軸センサーで体験者の「左右確認」等の行動をチェックすることにより、安全運転の評価ができます。



(自転車視点)



(自動車視点)



(全体俯瞰視点)

■VRコンテンツ内容

【1】走行体験

日常の通学路で自転車に乗った視点から、周囲の状況や標識などを「車道や歩道の通行時」や「交差点の横断時」などに正しく認識できているか、チェック・評価を行います。



【2】スケアード・ストレイト教育※

< I >
出会い頭の事故
(信号のない交差点)

< II >
交差点での
左折巻き込み事故

< III >
路側帯から車道への
進出事故

※ 恐怖を実感することで、それにつながる危険行為を未然に防ぐ教育手法。